

全科協

vol.51 *News*

NO.6

2021年11月1日発行 通巻第301号

特集

巡回展示物の開発から活用まで

●CONTENTS●

- P 2 ▶ 特集
- P10 ▶ 海外博物館事情
- P12 ▶ 11月12月の特別展等
- P14 ▶ リニューアル情報
- P16 ▶ トピックス

JCSM
Japanese Council of Science Museums Newsletter

全国科学博物館協議会

〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20 国立科学博物館内

TEL 03-5814-9863 FAX 03-5814-9899

<http://jcs.jp/>

巡回展示物の開発から活用まで

巡回展示は博物館における展示のなかで、自館の常設展示では見ることのできない標本資料や解説パネルといった小規模のものから、特別展として大規模に展開するためにパッケージ化された巡回展示物までさまざまな形態がある。

科学系博物館にとっては、メンデレーエフの周期律発見から150年目にあたる2019年に全国を巡回した「国際周期表年展2019特別展」が記憶に新しいのではないかと。この特別展では会場の環境、条件により展示構成を工夫し、館独自のプログラムの実施や、地域にゆかりのある事例や人物紹介を組み合わせるなど、同じ展示でも学芸員の方の解説や見せ方によって伝えたいメッセージが詰まった特別展となったように思う。

企画側でコンテンツを検討する際に、自館で眠っている収蔵コレクションを活用するものから、特別展などで新たに開発、制作した展示物を、一度きりで終わらせるのではなく他館へ巡回させるものがある。いずれにしても貸出側は自館のコレクションや取り組みをアピールする機会となり、博物館同士の交流や、科学系博物館以外での展示などさまざまな活用法を秘めている。受入れ側としては、開発～制作までの労力をかけることなく、少ない予算で新たなコンテンツを紹介し、企画展・特別展として開催することで入館者数がある程度見込めるといったメリットが考えられるだろう。

本特集では、巡回展の企画、制作、運営などについて貸出側の事例紹介として、国立科学博物館、産業技術総合研究所・地質標本館、科学技術館に執筆いただいた。また、受け入れ側の視点や事例については防府市青少年科学館ソラールにご紹介いただいた。

巡回展ならではのアイデアや工夫、運営における注意点などの事例を通して、今後、巡回展示物の活用を検討する館に参考としていただくとともに、巡回展示、他館との連携を通して、自館イベントや展示物の企画開発・運営、ひいては博物館活動の活性化につながれば幸いである。

科学技術館 学芸員 西田 雅美

巡回展による標本資源活用の可能性

国立科学博物館
科学系博物館イノベーションセンター 展示開発・博物館連携グループ 展示開発担当 久保 匡

1. はじめに

国立科学博物館（以下、当館）ではこれまで、全国の科学系博物館を中心に巡回展キットの貸出を積極的に行ってきた。「ノーベル賞を受賞した日本の科学者」などパネル主体の展示キットを複数有し、全科協加盟館などを中心に多くの施設へ貸出を行っている。

2019年、当館に科学系博物館イノベーションセンター（以下、当センター）が新設されたことを契機に、博物館資源を活用した、2つの巡回展キットを新たに開発することになった。本稿では、これらの開発経緯や展示内容について紹介し、巡回展による標本資源活用の可能性について述べてみたい。

2. 新たな巡回展キット開発の経緯

当センターの活動は、地域博物館を含めた事業活性化と経営基盤の強化を主な目的としている。その一環として、博物館が持つ資源を活用した、地域住民への学習支援、地域振興に貢献するための巡回展キットを開発することになった。当センターの立ち上げから約二年をかけ、当館の収蔵庫に保管されているコレクションで構成した「WHO ARE WE 観察と発見の生物学」と、複数の博物館が所蔵するコレクションを併用して構成した「ポケモン化石博物館」を開発した。どちらも今年の夏から各地域で巡回展が開催されている。（図1）

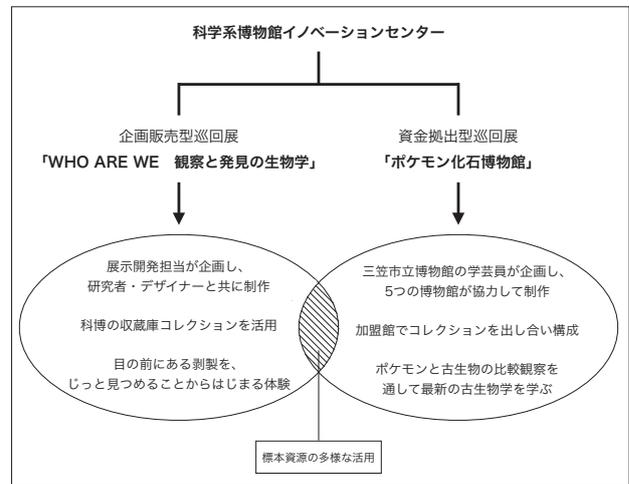


図1 新たに開発された2つの巡回展キット

3. 「WHO ARE WE 観察と発見の生物学」

当館では約485万点の標本を有しているが、その多くは収蔵庫に保管され普段は公開されていない。これら非公開のコレクションの中から、哺乳類を中心とした貴重で珍しい剥製や資料を厳選し、巡回展キットとして構成した。展示テーマは「観察の眼、発見の芽」。「声なき標本たち」の姿を通して、見つめる眼（観察）と見つける眼（発見）を育み、他の生物との意外な共通点、私たちの日常とのつながりなど、標本にまつわる学びや問いを発見することができる展

示となっている。学術監修を動物研究部研究主幹である川田伸一郎が担当し、企画編集・デザインを株式会社日本デザインセンターの三澤デザイン研究室が担当。当館の研究者と展示開発担当者、デザイナーが一丸となって制作した。(図2)



図2 「WHO ARE WE 観察と発見の生物学」展示風景(写真=岡庭璃子)

4. 「ポケモン化石博物館」

この巡回展キットは、原案者である三笠市立博物館の主任研究員・学芸員である相場大佑氏を中心に、当館をはじめとする5つの博物館が加盟館となり、株式会社ポケモンと協働して制作した。人気ゲーム『ポケットモンスター』シリーズに登場する「カセキ」「カセキポケモン」と現実世界の「化石」「古生物」をテーマに、「観察・比較」という科学の基本的な手法を体験しながら、これらの形や生態、それぞれの世界の化石研究の共通点・違いを発見し、楽しみながら古生物学を学ぶことができる展示となっている。単館では制作が困難な規模・内容の展示を、複数の館が手を組み、実現することができた。企画、設計から制作まで全てにおいて相場氏が総合監修を務めた。(図3)



図3 「ポケモン化石博物館」展示風景

5. 開発時に工夫した点

このようにして開発された2つの巡回展キットは、標本資料、展示テーマ、展示手法など異なっているが、どちらも共通した考えをもとに開発している。展示をつくる際、何をみせるか(モノ)、何に載せるか(造作・什器)、どうみせるか(展示方法・演示方法)といった観点が重要となるが、巡回展キットの開発では、「どう巡回するか(持続性)」という観点が加わることになる。下記にて、持続した巡回展事業となるよう工夫した点をいくつか紹介する。

5-1. さまざまな場所や環境を考慮して設計する

あらかじめ貸出しをする展示会場に合わせたレイアウトを設計時に定めることができないため、巡回展キットはさまざまな場所での設置を考慮してデザインされなければならない。展示を構成する造作物は全て鳥什器や組立式の壁面とし、この数量を調整することで150~300㎡の会場で展開可能な設計とした。標本資料や什器に加え、サインや解説パネルなど全て一体としてキットに含んでおり、貸出先にて新規の制作物が発生しないようにしている。展示室の設備に依拠しないよう、壁掛けや天吊りといった手法は極力用いず、貸出先に負担の少ない設計としている。

5-2. 新しい展示方法を探究する

輸送や設営を考慮すると、巡回展キットに用いる標本資料には自ずとサイズや数量に制限が設けられる。そのため、一点一点の標本資料をじっくりと観察してもらう工夫が必要となる。「WHO ARE WE 観察と発見の生物学」では、什器引き出しの中に剥製を観察するためのヒントが散りばめられており、最初に剥製を見たときには気付かなかった視点を得ることができる。引き出しを開けた後に再び剥製を観察することで、新たな問いや気づきを発見でき、限られた標本資料でもしっかりとした展示体験を提供している。制限があるからこそ、展示物を観察する仕組みづくりを深く掘り下げる試みになり、常設展示や特別展示とは異なる、巡回展キット独自の展示方法を探究することができる。

5-3. 博物館に普段行かない人へ届ける

科学系博物館はもとより、美術館や文化複合施設など全国の多様な施設への貸出を想定している。そこで重要になるのは展示への入口設定である。「目の前にある剥製を、じっと見つめることから始まる体験」「ポケモンを入口に古生物学を学ぶ」。こういった入口の設定と、展示タイトルやビジュアル、展示体験の設計によって、余暇の過ごし方として博物館に足を運ぶことが少ない方にも博物館資源にふれる機会を創出し、興味を持つきっかけを提供することができる。

5-4. 持続可能な仕組みをつくる

巡回事業を継続していくには、メンテナンスや運営費が必要不可欠となってくる。今回の巡回展キットは、貸出先から利用料をいただくことにしている。この利用料は、独自収入としてメンテナンスや運営費に使用する以外に、標本資

料の補修などコレクション維持管理のために使用する。

5-5. 標本資源活用モデルを構築する

巡回展事業は、いくら開発しても借り手がいなければ成立しないし、貸出す側の負担が大きければ持続した事業にはならず、短期的な取り組みに終始してしまう。

貸出用に設計・デザインされた巡回展キットを、全国の施設へ貸出する。その際に生じる利用料によってキット本体やコレクションを維持管理し、新たな展示キット開発の原資とする。同時に開催館は話題性のある巡回展を開催することで入館者数の増大、ひいては収入の増加が期待でき、それらを新たな事業展開に活用することができる。

この一連の流れにより、巡回展による持続的な標本資源活用モデルが構築され、目的である地域住民への学習支援、地域振興への貢献が実現できると考える。(図4)

6. さいごに

博物館は本来、モノを通じて世界を見る、世界を知るための場所であり、そのためにあらゆる人が利用できる場所であるべきである。昨年来、世界中にまん延している新型コ

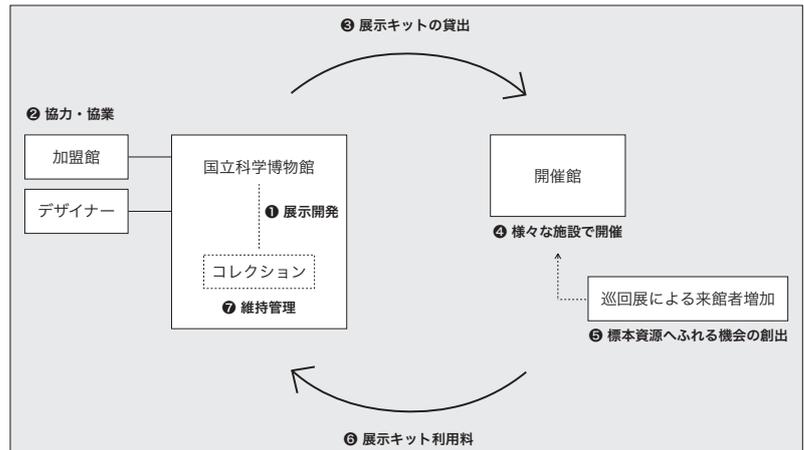


図4 巡回展による標本資源活用モデル

ロナウイルスの影響で、国外のコレクションを活用した展示制作が困難となり、また展示を見に行く方も長距離の移動が制限されている状況が続いている。そんな今だからこそ、日本の文化資源である自国のコレクションに目を向け、その活用を通じて科学を伝えることがますます重要となっていくことだろう。当館の博物館資源を活用した巡回展キットを貸出すことで、全国の博物館活動の持続的な発展へ貢献する好循環をつくる。こうした一連の流れが、博物館展示の新たなモデルとなるよう、これからも取り組んでいきたい。

全科協巡回展を活用した地質標本館からの発信

国立研究開発法人 産業技術総合研究所 地質標本館 館長
森田 澄人

1. はじめに

地質標本館による全科協の巡回展。簡単に言えば、それは当館で開催した特別展の再活用になります。およそ3か月の単位で開催する地質標本館の特別展は、エントランスホールを利用して展示パネルのボードを大々的に広げるとともに、岩石試料や調査道具などさまざまな資試料の実物展示や、動画のループ公開、さらに大きな地図類の床張りなどが特徴です。巡回展でご利用いただくのは、主に展示パネルとして掲示している情報の部分です。関係スタッフが協力しながら作り上げた特別展が、全科協巡回展として新たに他の加盟館園で活用され、また新しいお客様の目に触れて情報の普及と浸透につながっていくことは、制作にかけた皆の努力にも大いに甲斐があったと感じます。全科協事務局やご利用いただく各館園の皆様には厚く御礼を申し上げます。

2. GSJだからできる展示

当館は、産業技術総合研究所地質調査総合センター(GSJ)の施設です。その役割は、研究所の研究成果の発信と、一般的な地学・地球科学の普及や啓発を進めること

です。館内展示は、研究成果にともなう新しい地球科学情報とともに、たくさんの岩石・鉱物・化石などの標本展示や地球の成り立ちなどの一般地学の情報も取り入れながら、うまくバランスをとるよう努めています。

一方、期間を限った特別展となると、一部の研究部署から創出された研究成果がテーマとなるものが大半です。特別展の制作には、数ある研究の中から、GSJだからできるモノを出していくというこだわりを持っています。もちろん、常設展示にもその性格は強くありますが、特別展については特に際立っているといつてよいでしょう。

そして、研究機関としてのGSJは、地学・地球科学に関する研究分野を広く網羅しています。展示テーマの選択や内容の組み立ては容易ではありません。GSJの研究の中から新しく尖った部分を社会に還元していきたいという当然の希望もありますが、それには大変な苦勞があります。研究の内容を一般に分かる言葉に翻訳したいけれども、それでは正確さが伝えられない。また、本題を説明するには大幅な遠回りが必要になるなど、どこの科学館でも抱えている永遠の命題でしょう。

「地質標本館の展示は難しい」などと一般の方に言われ



現在、巡回展に登録中の過去の特別展（左から、本文中 A）、B）、D）

るのは常で、違った表現で「学者さんの展示だな」などと言われることもあります。これらは正解なので、何とも言い返せません。可能な限り、伝わりやすい展示を創っていく努力は必要であり、制作過程においては、一般事務の契約職員までも含めた大人数の会議を繰り返し開催し、広く意見を集めながら進めていくのが当館の特別展の特徴です。

3.4 回おいしい特別展

冒頭に書きました通り、当館からの巡回展への出展は、いずれも特別展の再活用です。上述の通り、特別展はスタッフの努力の結晶でもありますから、それは館内展示以降も繰り返し利用していただくことが私たちの希望です。そのため、私が当館に就いた2019年度以降、特別展はその製作段階から、巡回展へつなげられることを意識して進めるようにしました。巡回展で活用していただく展示パネル情報については、次のような活用をしています。

- 1) 特別展の館内展示
- 2) 配布用としての冊子版ブックレット
- 3) ホームページ上ダウンロード用のPDF版ブックレット
- 4) 全科協巡回展

これを私は、「4回おいしい特別展」と所内的に呼ぶことにしました。

当館の特別展につきましては、かつてから全科協巡回展で活用をいただいております。しかし、「4回おいしい」と呼ぶようにしたのは、それこそ巡回展までを目指そうということを明確に示しています。ブックレットの作成など、どちらの館園でも行っていることかもしれませんが、これらも含めて、敢えて「4回」と呼びました。これは著作権の確認の煩雑さから逃れるためでもあります。かつての巡回展出展では、外部への貸し出しの度に資料内に含まれている情報の著作権や使用許諾の確認を繰り返すこともあったようです。それは単に小さな所帯の至らなさだったかもしれませんが。しかしこのような反省を踏まえ、最初の制作段階

から各協力関係方面に向けて4つの利用方法についてご理解をいただき、まとめて使用許諾を確認することとし、あとをスムーズに流れるようにしました。これは、内部の円滑な業務の遂行だけでなく、外部からの需要、巡回展依頼についても速やかに対応できるという利点があります。もちろん全てにおいて、4回分の使用許諾を初めから得られるわけではありませんが、このような意識の共有が業務の多様な場面での対応には重要だと感じています。

上述の通り、ダウンロードできるPDF版ブックレットも館内展示と同じ情報ですが、冒頭に申し上げました通り、館内展示においてはその他の展示物も数々あり、ご来館いただくことにはブックレット以上に大いに特典があることを申し添えておきます。

4.巡回展登録の展示物

現在、全科協の巡回展に登録している特別展は以下の通りです。

- A) 「地球の時間、ヒトの時間 一アト秒から46億年まで35桁の物語」
時間を旅する地質学の中で、それぞれの時代を解き明かす年代測定。さまざまな時間スケールや対象物質に合わせた地層の年代測定法を紹介。2018年度開催の特別展。
- B) 「美しい砂の世界 一日本の砂、世界の砂、地層の砂」
砂が集まるには理由があり、その地域の環境や地球の歴史を教えてくれるヒントがあります。GSJが誇るさまざまな砂のコレクションを紹介。2019年度開催の特別展。
- C) 「日本初! 日本列島大分析 元素で見る『地球化学図』」
さまざまな地図がある中、GSJが初めて地表の化学地図の作成に挑戦しました。全国の地形と川砂などからたどった「地球化学図」は地域の地層の変化も示しています。2019年度開催の特別展。

- D) 「祝チバニアン誕生! 拡大版 ―もっと知りたい千葉時代―」
2020年1月、日本の地名として初めて、地球の歴史の一時代の名前となった「チバニアン」。その時代の様子や、認定のカギとなった地磁気研究について紹介。2020年度夏季に特別展を開催した後、全国のチバニアン分布図など、新たな情報を追加した拡大版を同年度冬季に再開催。
- E) 「深海の新しい資源にせまる ―SIPプロジェクトによる革新的な地質調査―」
政府のSIP戦略的イノベーション創造プログラムから、レアアースなどGSJが担当する最先端の海洋資源調査

を紹介。2020年度開催の特別展。

5.おわりに

当館の特別展につきましては、まだまだご紹介したいポイントがございますが、いずれの展示についても、館のこだわりから個々の研究者のこだわりまでが様々散りばめられています。それを汲み取るスタッフ陣がいて、ポスターやパネルのデザインにつきましても、私たちの表現したいものがそのまま表れています。企画の段階から、4通りの使い道を意識して制作した特別展です。今後も、巡回展を通して更なるご活用につながることを期待しております。

科学技術館の巡回展示物について

科学技術館
人財育成部 科学教育推進グループ 巡回展担当 砂子 賢治

巡回展示物の概要

科学技術館では、科学を身近なものとしてとらえ、楽しく遊びながら沢山の発見と驚きや感動を体験できるようにさまざまな巡回展示物を用意し、全国の施設へ有償にて貸出を行っています。貸出先に制限はなく、過去には公共施設はもとよりショッピングモール、企業の研究所などへの貸出実績もあります。2021年4月時点で11種類（うち未運用1種類含む）のパッケージ化された巡回展示物があり、パッケージ単位での貸出を行っています。パッケージ毎に異なりますが、一つのパッケージの中に15～30点程度の展示物があります（図1）。展示物全体の展開スペースが150㎡～300㎡程度で収まるように構成されており、セッティングにはレクチャー含めて最長で丸2日、撤去はどのパッケージも1日で完了する内容になっています。

また、貸出時のコンセプトとして、ご相談から必要書類の受渡し、配置計画、セッティング、撤去などすべて科学技術館のスタッフで行っており、貸出先側のフレキシブルな展開要望に対して柔軟に対応することを心がけています。

巡回展示物の特長

科学技術館の巡回展示物の特長として、以下の6点が挙げられます。

- ① 大多数の展示物が参加体験型（ハンズオン型）で構成されていること
- ② 科学技術館の巡回展示物以外の借物展示物と併せて一つのイベントとして開催することができること
- ③ 貸出先側でイベント会場への入場の無料・有料を設定することに制約がないこと
- ④ 全国の科学館や博物館などにある平均的な広さの展示スペース内（150㎡～300㎡程度）に収まるボリューム感で構成し

ていること

- ⑤ 運営管理に関わる必要スタッフ数を極力少人数で賄えるように構成していること
- ⑥ 貸出先側へ特別な備品手配の依頼はなく、貸出先側で保管する既存の展示用机・椅子・パネルボード類を借りながら、展示物の配置ができること

展示物のメンテナンス

巡回展示物は通常科学技術館内の倉庫で保管をしており、貸出先のイベント開催期間中に展示物の不具合がなるべく発生しないよう、貸出前には必ず2回動作確認を行ってから搬出しています。貸出先にてイベント開催中に展示物の動作不調や不具合が発生し、展示が休止となり、休止期間が長引くことが一番避けなければならないことですが、そのためにパッケージ内の展示物個々の特性を日頃より熟知した上で定期的にメンテナンスを実施し、機器類の取扱い事項に関しては、セッティング時にレクチャーとして貸出先のスタッフに詳しく伝達をするようにしています。ま



図1 「マスレチック・ランド」展示物全33点の展開時の様子（2017年夏：科学技術館）



図2 演出側



図3 バックヤード側

た、不調や不具合が発生した場合に、できるだけ貸出先のスタッフが簡単に対処できるよう予備部品などを予め用意し、セッティング後の引き渡し時に預けるようにしています。

パッケージ展示物の制作

科学技術館では、貸出のみならず、助成金などを活用しながら新しいパッケージの巡回展示物の制作も行っています。新しいテーマの設定に際しては、なるべく巡回展示物の貸出先の要望を汲み、テーマの設定を行っています。テーマの主旨に沿った展示物を開発することは勿論ですが、体験の仕方、流れなどを熟考し、展示物に反映できることを心がけています。展示物のテーマなどについては、さまざまな意見や要望を外部の方からいただき、それを展示物として具現化する際には、制作側が「面白い」と感じなければ実際に展示を体験する方には伝わらないと考え、制作過

程においてさまざまな角度からディスカッションを行うこととしています。さらに、巡回展示物の貸出時のメンテナンス作業のノウハウを基に、新しい展示物を制作する際には、常に修理のしやすさ、予備品の補充なども考慮しながら制作しています。

運用時を想定した考慮

科学技術館の巡回展示物は、イベントの開催期間中は貸出先のスタッフにて展示物を運用いただくため、その間科学技術館のスタッフは不在になります。そのため、実際の運用を想定し、次のようなことも制作時に心

がけています。

展示物にはどうしても経年劣化が発生します。この経年劣化と付き合っていくためには、意図的に弱い部分を設け、展示物が不調になった場合に都度チェックする部分として割り切れることは、展示物を制作するにあたり有効な手段だと考えています。この意図的に設けた弱い部分は、安価で入手しやすい材料で構成し、また仕組みも簡素化することで、貸出先のスタッフが安易に交換できるようにしています。

また、パッケージでの貸出のため、展示物の梱包材が必要不可欠です。これらの梱包材は、貸出期間中貸出先にて保管いただくこととなりますが、梱包材の数が多いと保管エリアも大きくなり、貸出先の負担になることもあります。そのため、ここ10年で制作したパッケージにおいては、大きな木箱を数箱制作し、その中にコンパクトに納められるようにしています。「科学捜査展 #SEASON2」のパッケージについては、梱包用の木箱が展示演出の骨組みを兼ねており、会場外で保管するエリアが不要という構成になっています(図2、図3)。

おわりに

科学技術館の巡回展示物については、科学技術館のホームページ内にて紹介しています。

科学技術館のトップページから「ビジネスでのご利用」をクリックし、「展示物貸出(巡回展示物)」をご覧ください。

<http://www.jsf.or.jp/business/travel/>

パッケージ内の展示物一つ一つの概要や写真などはもとより、展示概要動画(一部)、巡回展示物の紹介パンフレット、予約状況など、予め多くの情報を公開しています。

予約状況は定期的に更新していますが、更新前にご相談の連絡を受けることもあり、まずは下記巡回展示物担当まで直接ご連絡いただき、ご相談いただければ幸いです。

(公財)日本科学技術振興財団 人財育成部 巡回展担当
TEL : 03-3212-4785

防府市青少年科学館は、(公財)防府市文化振興財団が指定管理者として運営しており、春・夏・秋・冬の年4回、約2カ月程度の会期で、さまざまな分野の企画展を実施している(現在は夏の企画展の実施はなし)。当館は常設展示室があまり広くないため、来館者に対して幅広くさまざまな分野の科学の学びの場を提供していく上でも、定期的な企画展の開催は欠かせないものとなっている。

科学館に携わる学芸員としては、本来なら企画・開催したいテーマすべての展示構成や展示物を1からつくってみたいという思いがある。しかし、当館は予算や人員などの規模が小さな館であるため、年4回の企画展全てを館オリジナルで企画・開催していくのは大変厳しい状況にある。また、当館はほとんど収蔵資料がないため、館オリジナルでの展示を行う際には、他館からの借用資料や自館での制作となり、その分企画展の準備にかかる時間も多くなっている。

このような事情を抱える当館にとって、巡回展示物の活用は、準備にかかる時間とスタッフの労力の軽減、提供できる科学分野の幅が広がる点において、大変有効なものとなっている。さらに、企画展のテーマにもよるが、予算面においても自館で開発するよりも低予算で済むことが多い。

巡回展の選定

当館では、企画展の開催時期によって来館者の対象を設定しており、その対象に合うような内容の巡回展を選定して利用している。小学校などの社会見学団体の多い「春・秋の企画展」は、できるだけ体験型を含む巡回展を選択し、小学生でも科学を少し掘り下げて学べるような展示構成にしている。幅広い年齢層と多くのファミリー層の来館がある「夏の企画展」は、科学に興味・関心を抱ききっかけづくりを第1目的としている。そのため、科学的な解説は少なめで、深く考える内容よりも現象がわかりやすく楽しめる展示が多い巡回展を選定している。また、来館者が多い時期であるため、ある程度の回転効率の良さも考慮している。「冬の企画展」は、当館では特に予算をかけることができない時期ということもあり、無償で借用できる巡回パネル展を利用し、大人向けの展示構成で開催することが多い。

巡回展の借用先は、商業施設向けにも展開している展示業者から、同業種館とさまざまである。それぞれ展示構成に特色があるため、開催時期と予算規模に沿った展示内容かを検討して利用し分けている。特に、同業種館制作の巡回展は、解説パネルや科学原理のバックボーンがしっかりつくられているものが多く、また、制作館での開催実績から運営面の事例情報も得ることができ、大変参

考になる。

巡回展の利用方法

当館の巡回展の利用には、①まったく手を加えずそのまま利用、②当館制作の関連展示やコーナーを追加して利用、③巡回展示物自体に手を加えて再構成して利用、の3パターンがある。なお、当然ながら③の場合には、巡回展のコンセプトが崩れないように留意しながら構成し、貸出元の許諾を得る必要がある。どのパターンで行うかは、基本的には担当者の裁量に任せているが、その年の担当する企画展数などの館業務量と、年間に実施する企画展規模などのバランスを考慮しながら決定している。

当館でも巡回展と同じようなテーマを自主企画展としての開催で検討することは多いが、「展示構成に入れたいけれど自館での制作が難しい展示物」がいつも課題となっている。巡回展は、「自館での制作が難しい展示物」が多いため、展示構成を考える上でも大変強みとなり、結果、そのテーマの展示の質が向上することに繋がる。当館で企画に携わる立場としては、元々自主企画を考えていたテーマの巡回展を利用する際には、つい「自館に合うように、どのようにこの展示を構成して利用しようか」と考えてしまうため、まず③のパターンから展示を考えることが多い。

巡回展の利用事例

2016年秋の企画展として実施した、(公財)日本科学技術振興財団・科学技術館の巡回展「科学捜査展#SEASON2」の利用事例を紹介する。本展は、事件や事故の現場に残された物的証拠を手掛かりに、科学技術を利用し、いろいろな角度から分析しながら捜査する「科学捜査」をテーマにした企画展である。本テーマに関する展示は、巡回展としては第2弾となり、当館でも2013年の第1弾利用に引き続き、2回目の利用となった。

展示内容は、指紋鑑定、血痕分析、交通事故鑑定、塗膜分析、火災鑑定、足跡鑑定などの10コーナーで構成されており、第1弾とは異なった切り口になるように工夫して制作されている。当館では、科学技術館の許可を得て、主に小学3年生から科学捜査が楽しめるよう、当館仕様に展示の再構成を行った。

交通事故鑑定や血痕分析などの主に大人向けのコーナーはそのまま展示し、他のコーナーは、展示の半分を当館でパネルや関連資料を追加して再構成した。また、巡回展の他に、圧痕分析、成分分析、筆跡鑑定、音声・声紋鑑定、骨鑑定などの11コーナーを、民間の科学捜査機関や地元の消防本部、科学館、大学などの協力を得て、自館で制作して追加

展示した。また、展示コーナーを使った謎解き体験型クイズラリーも追加し、子どもから大人までが巡回展示物をまた違う視点で楽しみながら体験できるような工夫も行った。



図1 巡回展示と自館制作展示を組み合わせたコーナー



図2 小学校の社会見学での体験の様子

本巡回展メイン展示の「捜査体験シミュレーション」は、タブレット端末を使い捜査の一連の流れを模擬体験できる内容の展示物である。専用の装置が必要であり、当館でこの基準の装置を開発・準備することは困難である。本展示は大変人気が高く、その利用を目的とした来館も多くあった。そのような体験を来館者に提供できたことは、本巡回展を利用したメリットの1つといえる。



図3 「捜査体験シミュレーション」コーナー

巡回展としては自館制作部分の割合が大きくなったが、巡回展示物がベースにあることで追加要素が加えやすく、来館者により充実した展示を提供することができた。

おわりに

巡回展は、調査から展示の開発までを考えると、企画・開発した担当者の多大な労力、学びのねらい・想いが凝縮して構成された展示であるため、そのまま手を加えずに利用するのが巡回展の基本だと考える。しかし、館の予算規模や職員数、その地域の来館者などの状況によって、必ずしもすべての展示がその館で運営できるとは限らない現状もある。巡回展のテーマや内容にもよるが、もし、利用館の予算や展示規模の状況に応じた貸出し対応（コーナー単位などのパッケージの小分け化）や、展示構成に手を加えることの許諾が可能であれば、当館のように小規模館などでの巡回展の利用がもっと増えるかもしれない。

当館では幸いにも、貸出元のご配慮により、館のオリジナル色を出すことができるような展示にカスタマイズさせていただくことが多かった。巡回展は、展示コンセプトはそのままに、利用館の工夫次第で、その館でしか観ることができない唯一無二の展示にもなり得る。ぜひ今後も有効活用し、展示を通してより多くの来館者に幅広い科学の学びの場を提供していきたい。

NOMURA GROUP

世界に、喜びと感動を

株式会社 乃村工藝社
本社 東京都港区台場2-3-4 TEL: 03-5962-1171 (代表)

ここを動かす空間をつくりあげるために。
調査・企画、デザイン・設計、制作・施工、運営

Tanseisha

空間創造のプロフェッショナル 株式会社 丹青社
〒108-8220 東京都港区港南1-2-70 品川シーズンテラス19F
TEL | 03-6455-8100 (代表) URL | www.tanseisha.co.jp
札幌・仙台・新潟・名古屋・京都・大阪・福岡・那覇・上海



■ 新型コロナウイルス感染拡大と戦う博物館

米ボストン科学博物館、新型コロナウイルス集団接種を実施（2021年5月）

2021年5月28日と翌29日に、米国はマサチューセッツ州のボストン（都市圏人口：約430万人）にあるボストン科学博物館で、12歳以上の青少年と大人を対象に、新型コロナウイルスの集団予防接種が実施された。実施主体は、マサチューセッツ州内でPCR検査とワクチン接種を行っている医療技術会社「CICヘルス」（本社：マサチューセッツ州ケンブリッジ）。二回目のワクチン接種は、6月18日と19日に実施された。ワクチン接種は事前予約が推奨されたが、感染の拡大にあわせて予約なしでも接種が受けられた。ボストン科学博物館での今回の集団予防接種の実施は、1930年設立の同館にとって初めての試みだ。

Museum of Science, Boston, Massachusetts.

[https://www.mass.gov/news/baker-polito-](https://www.mass.gov/news/baker-polito-administration-teams-up-with-dunkin-and-museum-of-science-with-initiatives-to-vaccinate-massachusetts)

[administration-teams-up-with-dunkin-and-museum-](https://www.mass.gov/news/baker-polito-administration-teams-up-with-dunkin-and-museum-of-science-with-initiatives-to-vaccinate-massachusetts)

[of-science-with-initiatives-to-vaccinate-massachusetts](https://www.mass.gov/news/baker-polito-administration-teams-up-with-dunkin-and-museum-of-science-with-initiatives-to-vaccinate-massachusetts)

[https://www.cic-health.com/press-release-dunkin-](https://www.cic-health.com/press-release-dunkin-donuts)

[donuts](https://www.cic-health.com/press-release-dunkin-donuts)

米フロスト科学博物館、新型コロナウイルス集団接種を実施（2021年6月）

2021年6月11日・12日・13日に、米国はフロリダ州のマイアミ（都市圏人口：約613万人）にあるフロスト科学博物館で、12歳以上の青少年と大人を対象に、新型コロナウイルスの集団予防接種が実施された。実施主体は、ニコラウスこども病院（所在地：マイアミ市）。二回目のワクチン接種は、7月3日と5日に実施された。ワクチン接種は事前予約が推奨されたが、感染の拡大にあわせて予約なしでも接種が受けられた。フロスト科学博物館での今回の集団予防接種の実施は、1950年設立の同館にとって初めての試みだ。

Phillip and Patricia Frost Museum of Science,

Miami, Florida.

[https://www.frostscience.org/get-vaccinated-at-frost-](https://www.frostscience.org/get-vaccinated-at-frost-science/)

[science/](https://www.frostscience.org/get-vaccinated-at-frost-science/)

米シンシナティ博物館、ワクチン集団接種を実施（2021年5月）

2021年5月22日と29日に、米国はオハイオ州のシンシナティ（都市圏人口：約223万人）にあるシンシナティ

博物館で、12歳以上の青少年と大人を対象に、新型コロナウイルスの集団予防接種が実施された。実施主体は、シンシナティ市内で複数の病院を運営している医療法人「トライヘルス」。歴史博物館、自然史博物館、子ども博物館と歴史図書館からなる複合施設のシンシナティ博物館での今回の集団予防接種の実施は、1991年開館の同館にとって初めての試みだ。

Cincinnati Museum Center, Cincinnati, Ohio.

[https://www.cincymuseum.org/press/cincinnati-](https://www.cincymuseum.org/press/cincinnati-museum-center-and-freedom-center-offering-free-covid-19-vaccines-may-22-29/)

[museum-center-and-freedom-center-offering-free-](https://www.cincymuseum.org/press/cincinnati-museum-center-and-freedom-center-offering-free-covid-19-vaccines-may-22-29/)

[covid-19-vaccines-may-22-29/](https://www.cincymuseum.org/press/cincinnati-museum-center-and-freedom-center-offering-free-covid-19-vaccines-may-22-29/)

米ヒューストン健康博物館、新型コロナウイルス集団接種を実施（2021年5月）

2021年5月22日に、米国はテキサス州のヒューストン（都市圏人口：約637万人）にあるマックガーヴェン健康・医学博物館（通称：ヒューストン健康博物館）で、新型コロナウイルスの集団予防接種が実施された。実施主体は、ヒューストンの調剤薬局「ヘルスコ・ファーマシー」。今回の集団予防接種の実施は、1996年開館の同館にとって初めての試みだ。

The John P. McGovern Museum of Health & Medical Science, Houston, Texas.

[https://www.thehealthmuseum.org/event/covid-](https://www.thehealthmuseum.org/event/covid-vaccines-health-museum)

[vaccines-health-museum](https://www.thehealthmuseum.org/event/covid-vaccines-health-museum)

米ショアライン路面電車博物館、ワクチン集団接種を実施（2021年7月）

2021年7月4日に、米国はコネチカット州イーストヘブン（都市圏人口：約3万人）にあるショアライン路面電車博物館で、新型コロナウイルスの集団予防接種が実施された。実施主体は、グリフィン病院（所在地：コネチカット州ダービー市）。今回の集団予防接種の実施は、米国で最も古い路面電車博物館である同館（1945年8月設立）にとって初めての試みだ。

The Shore Line Trolley Museum, East Haven,

Connecticut.

<http://shorelinetrolley.org/>

[https://www.zip06.com/living/20210701/covid-19-](https://www.zip06.com/living/20210701/covid-19-vaccination-clinics-at-the-shore-line-trolley-museum)

[vaccination-clinics-at-the-shore-line-trolley-museum](https://www.zip06.com/living/20210701/covid-19-vaccination-clinics-at-the-shore-line-trolley-museum)

米ワイルドウッド航空博物館、ワクチン集団接種を実施（2021年4月）

2021年4月15日に、米国はニュージャージー州ケープ

メイ（都市圏人口：約3,500人）のケーブメイ飛行場にある旧米海軍ワイルドウッド航空博物館で、新型コロナウイルスの集団予防接種が実施された。実施主体は、米国東海岸各地で店舗を持つスーパーマーケット・チェーンの「ACME」の調剤薬局部門。今回の集団予防接種の実施は、1997年設立の同館にとって初めての試みだ。同館は、第二次世界大戦中は米海軍の航空訓練基地だったケーブメイ飛行場（現在は民間の小型飛行機が主に発着）に残る古い航空機格納庫に設けられており、航空機の歴史と米海軍航空隊の歴史が実機で紹介されている。

Naval Air Station Wildwood Aviation Museum, Cape May, New Jersey.

<https://usnasw.org/>

https://pressofatlanticcity.com/community/currents_gazettes/middle_township/aviation-museum-hosts-vaccination-clinic/article_8ec8c654-5b5a-57fb-ab2d-36ddeab31dac.html

■リニューアル

イエテボリ海事博物館が、リニューアル中（2022年再開予定）

2022年の開館をめざして、スウェーデンはイエテボリ（都市圏人口：約61万人）にあるイエテボリ海事博物館で、全館のリニューアルが進行している。イエテボリ（ヨーテボリとも）は、スカンジナビア半島で最大の港湾施設を有し、貿易と海運の歴史が長い。1933年開館のイエテボリ海事博物館は、イエテボリを拠点とした船の歴史を紹介した博物館であり、開館当初から水族館も併設している。

Sjöfartsmuseet Akvariet, Göteborg.

<https://www.sjofartsmuseetakvariet.se/index.php/en/renovation>

■新設館

中国・湖北省に宇宙科学館が開館（2021年4月）

2021年4月21日に、中国は湖北省第二の都市・荆州市（都市圏人口：約647万人）に、宇宙科学館「九号宇宙航天探索中心」が開館した。民間の人工衛星製造会社の九天微星が設立し、運営を行っている同館では、中国における宇宙航空技術における発展を紹介している。英名：Space Exploration Center Nine.

九号宇宙航天探索中心、荆州市、湖北省。

<https://www.chinanews.com/sh/2021/04-21/9460483.shtml>

http://www.xinhuanet.com/english/2021-04/22/c_139899265.htm

https://720yun.com/t/1fvkc7qe7p9?scene_id=64412781

■常設展

ボストン科学博物館、ワクチン展がオープン（2021年8月）

2021年8月16日に、米国はマサチューセッツ州のボストン（都市圏人口：約430万人）にあるボストン科学博物館で、ワクチン開発を紹介した常設展「Project Vaccine: Our Best Defense」がオープンした。同展では、ワクチン開発の歴史、ウィルス感染のしくみ、五種類のワクチン（RNAワクチン、ウイルスベクターワクチン、弱毒生ワクチン、不活化ワクチン、組換えワクチン）や、ウィルス感染の拡散と防止・予防方法が紹介されている。対象年齢：小学3年生以上。協賛：マサチューセッツ生命科学研究所、ジョンソン・エンド・ジョンソン社。

Project Vaccine: Our Best Defense.

Museum of Science, Boston, Massachusetts.

<https://www.mos.org/project-vaccine>

<https://www.mos.org/exhibits/project-vaccine-exhibit>

<https://news.yahoo.com/video/museum-science-opens-project-vaccine-215800673.html>

■企画展・特別展

英マンチェスター科学産業博物館で、がん治療の現在と将来展を開催

2021年10月22日に、英国はイングランド中部の主要都市マンチェスター（都市圏人口：約282万人）にあるマンチェスター科学産業博物館（国立科学博物館機構 Science Museum Group）で、がん治療の最前線と将来を紹介した展覧会が開幕した。会期は、2022年3月31日まで。同展は、マンチェスターでの開催後、ロンドン科学博物館に巡回予定（会期：2022年5月～10月）。企画協力：王立がん研究基金（Cancer Research UK）。

Cancer Revolution: Science, innovation and hope.

Manchester Science and Industry Museum, Manchester.

<https://www.scienceandindustrymuseum.org.uk/whats-on/cancer-revolution>

<https://news.cancerresearchuk.org/2021/07/28/announcing-cancer-revolution-a-world-first-exhibition-to-engage-people-with-progress-against-cancer/>

11月12月の特別展等

開催館	展覧会名	開催期間
釧路市こども遊学館	サイエンス屋台村	11月3日
	ウインターイルミネーション	11月27日～2022年1月30日
	クリスマススペシャル	12月18日・12月19日
岩手県立博物館	教科書と違う岩手の歴史-岩手の弥生～古墳時代-	11月23日～2022年2月6日
仙台市天文台	東北大学天文同好会写真展「星彩の一写」	11月2日～12月28日
秋田県立博物館	企画展「外来生物 -運ばれる生き物たち-	12月4日～2022年4月3日
郡山市ふれあい科学館	ホワイエ企画展「恒河沙 in スペースパーク 板橋克己作品展」	10月2日～11月28日
	スペースパーク企画展「未来の遊園地 デジタルパークへようこそ!」	12月4日～2022年1月10日
	ホワイエ企画展「日本の宇宙飛行士たち」	12月4日～2022年1月30日
ミュージアムパーク 茨城県自然博物館	第82回企画展 「こけティッシュ 苔ニューワールド! -地球を包むマイクロの森-	10月16日～2022年2月6日
栃木県立博物館	テーマ展「クビアカツヤカミキリ ～話題の害虫まるわかり～」	7月17日～2022年1月23日
	第131回企画展 「木と木の実の考古学 ～縄文時代の低湿地遺跡と植物の利用～」	10月9日～11月23日
	テーマ展「昔のこと知ってつけ? ～道具を知れば暮らしが見える～」	12月11日～2022年3月27日
群馬県立自然史博物館	開館25周年記念 第64回企画展「鳥がトリであるために」 season2	9月11日～12月5日
鉄道博物館	秋の企画展「山手線展 ～やまてせんが丸くなるまで～」	10月9日～2022年1月31日
川口市立科学館	特別展「ぴかり 光であそぼう! 光で学ぼう!」	12月11日～2022年2月13日
越谷市科学技術体験センター	開館20周年特別展「サイエンチスト宮沢賢治Ⅱ」	8月11日～11月3日
千葉市科学館	秋の企画展「科学の100年 いま・むかし・みらい」	10月30日～11月28日
千葉県立中央博物館	収蔵品展 「古い道具と昔の暮らし」	9月14日～2022年3月4日
	特別展 「バラのすべて～All about Roses～」	10月9日～11月28日
	企画展 「兜とカブト」	10月22日～12月5日
	特別公開 「赤羽刀」	12月9日～2022年2月6日
千葉県立現代産業科学館	令和3年度企画展「カ・ラ・ク・る -歯車が伝える動き-	10月16日～12月5日
国立科学博物館	企画展「日本の海洋調査への挑戦とあゆみ -JAMSTEC 創立50周年記念-	6月29日～2022年3月21日
	国立科学博物館・竹中大工道具館共同企画展 「木組 分解してみました」	10月13日～11月24日
	特別展「大英博物館ミイラ展 古代エジプト6つの物語」	10月14日～2022年1月12日
	企画展「発見!日本の生物多様性 ～標本から読み解く、未来への光～」	12月14日～2022年2月27日
たばこと塩の博物館	杉浦非水 時代をひらくデザイン	9月11日～11月14日
多摩六都科学館	科学の本棚Ⅱ ～科学と女性～	11月2日～12月5日
	冬の特別イベント ロクトロボットパーク	12月25日～2022年1月10日
平塚市博物館	秋期特別展「神奈川の大地 - 一億年の記憶 -」	10月23日～2022年1月10日
糸魚川 フォッサマグナミュージアム	特別展「アルプスと海をつなぐ梅海新道 ～大縦走路の軌跡～」	7月22日～11月30日

※施設の一部を閉鎖している館園や、入館に際し予約を必要とする館園がございます。各館園のホームページをご確認ください。

開催館	展覧会名	開催期間
上越科学館	上越市市制施行50周年記念 小惑星探査機はやぶさ2帰還カプセル等展示会 ～勇気をありがとう、はやぶさ2 52億 kmの挑戦～	10月29日～11月2日
	青少年のための科学の祭典 新潟県・上越大会	11月20日～11月21日
富山市科学博物館	第29回「私の身近な自然展」	12月11日～2022年2月6日
世界淡水魚園水族館 アクア・トトギス	フグざんまい やっぱり川のフグにこだわりました	11月13日～2022年4月10日
中津川市鉱物博物館	第26回企画展 「石のおはなし・おはなしの石 ～絵本のなかの石たち～」	10月16日～12月25日
ふじのくに地球環境史 ミュージアム	トピックス展「伊豆半島を縦にぶった切り!」	10月12日～12月5日
	しずおかの酒と肴	12月4日～2022年5月8日
	トピックス展「しずおかの、魚のサケ」	12月7日～2022年2月6日
静岡科学館 る・く・る	企画展 ナカミとシクミの世界	12月18日～2022年2月20日
ディスカバリーパーク焼津	秋の特別展「大潜入 スパイ作戦 盗まれたクリスタルを取りもどせ!」	9月1日～11月28日
トヨタ産業技術記念館	トヨタコレクション企画展 「いのちと向き合った医師たちの挑戦 ～江戸期の医療とモノづくり～」	10月2日～12月19日
名古屋科学館	ティラノサウルス展 ～T.rex 驚異の肉食恐竜～	11月13日～2022年2月13日
博物館明治村	「恩物」の世界 -ドイツの知育玩具-	9月11日～12月12日
高槻市立自然博物館 (あくあびあ芥川)	企画展 「芥川と70年前の少年たち ～わしらも昔は川ガキやったんや～」	10月23日～2022年1月23日
伊丹市昆虫館	プチ展示「虫のえほん」	10月6日～12月27日
	企画展「伊丹の自然」	11月10日～2022年2月14日
鳥取県立博物館	とつとりの乱世 -因幡・伯耆からみた戦国時代-	10月9日～11月7日
	コレクション・マリアージュ: SOMP O美術館×鳥取県立博物館 「東郷青児と前田寛治、ふたつの道」	11月20日～12月26日
出雲科学館	いろいろ色展	10月23日～11月14日
島根県立三瓶自然館	ポケモン化石博物館	10月9日～2022年1月30日
倉敷市立自然史博物館	特別陳列「みんなの動物ラボ」	9月22日～11月6日
	第29回しぜんしくらしき賞作品展	11月13日～2022年1月5日
広島市健康づくりセンター 健康科学館	企画展 見つけよう! ～わたしの癒しの処方箋～	11月13日～2022年3月6日
広島市交通科学館	秋季企画展 アートな乗り物	10月7日～11月28日
大和ミュージアム 呉市海事歴史科学館	第29回企画展「竣工80年 戦艦「大和」と呉軍港」	7月31日～2022年5月30日
防府市青少年科学館	企画展「万華鏡展 ～鏡の世界であそぼ!～」	10月30日～2022年1月16日
愛媛県総合科学博物館	企画展「磁石工場をのぞいてみよう」	12月11日～2022年1月30日
北九州市立いのちのたび博物館 (北九州市立自然史・歴史博物館)	「世界遺産ビジターセンター」開設	3月16日～2022年3月31日
	秋の特別展・官営八幡製鐵所開業120年 「鉄と都のものがたり -釜石と八幡-」	10月15日～11月28日
	企画展「わくわくタイムトラベル いま・むかし」	11月6日～2022年3月31日
佐賀県立宇宙科学館	オーロラを体感! ～オーロラメッセンジャー中垣哲也オーロラ展～	12月18日～2022年2月13日
沖縄県立博物館・美術館	海とジュゴンと貝塚人	10月15日～12月5日
	企画展「かたつむり展 -かたつむりミュージアムラセン館巡回展 -」	12月21日～2022年1月23日

※次号(1月号)に掲載の1月2月の特別展情報は11月26日(金)までにお寄せください。

リニューアル情報

※次号(1月号)に掲載のリニューアル情報は11月26日(金)までにお寄せください。

徳島県立博物館

[更新箇所] 常設展示室

[更新面積] 2,495㎡

[更新内容] 徳島県立博物館は開館30周年を契機に常設展示室を全面リニューアルしました。「徳島まるづかみー“いのち”と“とき”のモノ語りー」をコンセプトとした新常設展には、以下の4つの特徴があります。

- ① 実物資料との出会い：最新の調査研究やおよそ55万点に及ぶ資料収集成果に基づき、徳島の自然と歴史・文化を俯瞰した「徳島らしさ」を実感することができる展示。
- ② 先端技術を活用した体験：AR、VRや高精細映像を活用した体験型展示。
- ③ 誰もが楽しめる場所：多言語化や音声・手話解説、多機能解説設備を用いて、誰もが快適に利用できる展示。
- ④ 地域の交流拠点：レファレンス(調べもの相談)機能の充実や、県民の調査研究成果の発信を通して、県民とのつながりを大切にする展示。

<展示構成>

徳島セクション

- (1) 徳島恐竜コレクション
- (2) 地質時代の徳島
- (3) 先史・古代の徳島
- (4) 中世の徳島
- (5) 近世の徳島
- (6) 近現代の徳島
- (7) 徳島のまつりと芸能
- (8) 徳島の自然と暮らし

コレクションセクション

- (9) 自然史コレクション
- (10) 歴史・文化コレクション
- (11) 県民コレクション

地球セクション

- (12) 地球と生命の歴史
- (13) 生物の多様性

展示室は、展示の性格に応じた3つのセクション「徳島セクション」、「コレクションセクション」、「地球セクション」で構成されています。加えて、ロビーゾーンには、徳島の魅力や特色を紹介する「徳島まるづかみコレクション」を設けて来館者にインパクトを与える演出を施し、メインゾーンへといざなう導入としています。また、「コミュニケーションゾーン」を新設し、徳島を“まるづかみ”できる高精細映像シアター、資料検索ができるデジタルコレクションウォール、スタッフや利用者が相互に交流できるコミュニケーションボードなどさまざまな機能をそなえた空間としています。旧展示室の順路は一方向でしたが、新常設展では新たに“ミュージアムストリート”を作り、興味関心のある展示を選んで自由に移動できるようにしました。

[公開日] 2021年8月9日(月)

[準備期間] 2017年から常設展のリニューアルに向けた準備を進め、約1年におよぶ展示設計の期間を経て、2020年8月末に閉室し、新常設展の展示製作を進めました。

[担当者] 株式会社乃村工藝社

[総工費] 設計費 79,867千円、展示製作費 1,124,200千円

TOKYO SCIENCE CO., LTD.

ミュージアム・ショップ向/教育用地学標本



地学標本/化石・鉱物・岩石
古生物/レプリカ・復元模型
恐竜復元モデル

since 1974

◆常設ショールーム：紀伊國屋書店・新宿本店1F TEL.03(3354)0131(代表)◆

Fossils, Minerals & Rocks
株式会社 **東京サイエンス** TEL.03-3350-6725 FAX.03-3350-6745
http://www.tokyo-science.co.jp
E-mail:info@tokyo-science.co.jp
〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷5-8-2 イワオ・アネックスビル

Practical Specimens for Study of Earth Science

Panasonic BUSINESS

現場の難題、求む。

お客様の課題の数だけ、答えがあります。

場外で
安心な時に
保証証 画像認識
ソリューション

場所を
選ばない
柔軟な
働き方を
多様な働き方改善
支援サービス

お客様に
働きと居心地の
両方を
空間価値向上
ソリューション

リピーターが
増える
お店にしたい
お客様の
行動分析による
店舗オペレーションの
最適化

パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社
https://www.panasonic.com/jp/company/psj.html





写真1 ロビーゾーン
“徳島らしさ”を実感できる「徳島まるづかみコレクション」



写真2 中世の徳島
「中世の徳島」では“三好長慶のデジタル塗り絵”など
ハンズオンが充実している



写真3 徳島の自然とくらし
「徳島の自然とくらし」では、徳島の山、川、海の生きものと
人のくらしを紹介



写真4 地球と生命の歴史
「地球と生命の歴史」では、化石や岩石の標本が
所狭しと並べられている

全く新しい映像体験をあなたに

Media Globe Σ SE

地球や広大な宇宙の姿を圧倒的なリアルさで再現する
次世代の全天デジタル映像ソリューション

コニカミノルタ プラネタリウム株式会社 <http://konicaminolta.jp/planetarium>

寄附の受付について

.....

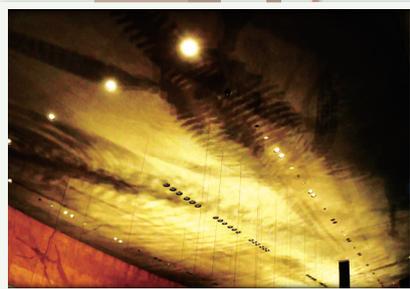
全科協の活動を支援いただく寄附を随時承ります。
申込み、お問い合わせは全科協事務局までご連絡
ください。

.....

みなさまのご支援ご協力をお待ちしております。

.....

空間を彩る「影」と「光」



北九州市立自然史・歴史博物館(いのちのたび博物館)HP
<https://www.kmnh.jp/>

天井に写る巨大な古生物の骨の影。展示物そのものだけでなく、こうした影たちも展示場の空間演出に一役買っています。このほか当館は、博物館としては珍しく天井に自然光の取り込み窓が設置されているため、時間帯により各所にスリット状の光が差し込み陰影に変化を与えます。自然光は資料保護の観点から悩みの種ともなるのですが、館内の雰囲気づくりには貢献してくれているようです。



次回執筆者は、目黒寄生虫館 佐田 直也さんです。

リニューアル情報のご提供をお願いします

最近(近年)リニューアルした展示、コーナー等がありますか？

もし、リニューアル行いました！という館・園がございましたら、ぜひ全科協ニュースへ情報をご提供ください！

全科協ホームページの投稿フォームからご投稿いただけます。

もしくは、事務局(info@jcs.jp)までお問合せください。

また、併せて特別展等の情報もご提供お待ちしております。(次号は1月2月開催分になります)

皆様のご投稿お待ちしております。



全国科学博物館協議会

全科協ニュース編集委員

石浜佐栄子(神奈川県立生命の星・地球博物館主任学芸員)

井島 真知(ベルナール・ビュフェ美術館学芸員)

西田 雅美(公益財団法人日本科学技術振興財団
科学技術館運営部主任)

畠山 泰英(株式会社キウイラボ代表取締役)

平田慎一郎(きしわだ自然資料館学芸員(参事))

弘田 澄人(かわさき宙と緑の科学館天文担当係長)

野村 篤志(国立科学博物館展示開発・博物館連携グループ長)

全科協事務局

国立科学博物館

科学系博物館イノベーションセンター

(担当:松澤・新井・堤)

TEL 03-5814-9863 FAX 03-5814-9899

info@jcs.jp

発行日 2021年11月1日

発行 全国科学博物館協議会 ©

〒110-8718

台東区上野公園7-20 国立科学博物館内

印刷 株式会社セイコー社